

# 自分のルーツ

学校法人角川ドワンゴ学園S 高等学校 2年

小原史織

「この部屋の中にあなたのいところがあります」。私が初めて遺伝子に興味を持った日、ある動画を見た。旅行会社がさまざまな環境で育ってきた人を対象に DNA 検査でルーツ分析をしているものだった。自分は生まれた国の血が 100%だと言っていた人には、何ヵ国もの血が混ざっていた。また、嫌いな国としてあげていたが 30%以上もその国の血が入っていたりする人もいた。そして最後のサプライズで、ある女性の実際のいところその空間の中にあることが分かる。2人が泣きながら抱きしめあっていたシーンは今でも忘れられない。

人間は誰しも親から半分ずつ遺伝子を受け継ぐ。そして、その親もまた親から半分ずつ受け継いでいく。そういうことを考えているうちに、ふと自分のルーツはどうなっているのだろうと疑問に思った。幼い頃から海外に興味を持っていた私は、少しでも海外の血が混ざっていたらいいなと思いながら DNA 検査を受けることにした。郵便ポストに入れてから結果がわかるまでの2週間ずっと落ち着かなかった。そしてついにパソコンに結果が届いた。300以上の項目がある中私は一目散に祖先解析のボタンを押した。恐る恐る見てみるとヨーロッパ民族 0.1%の文字があった。たった 0.1%か、と思う少し残念な気持ちと、先祖にヨーロッパの人がいたのか、という嬉しい気持ちが混ざった。他の項目を見ているうちに、私は急に 0.1%が何年前なのかとても気になり計算してみることにした。すると、その人は大体9代前ということがわかった。一代 30年とすると 270年前ということになる。270年前は日本では江戸時代、中国では清の時代である。9代前の先祖は 512人だが、その中に海外の人がいると思うととてもワクワクした。

そのほかにもかかりやすい病気や体質などの項目もあった。私はその中でも体質に関する項目に驚いた。朝食を食べるか、催眠術にかかりやすいか、乗り物酔いをするかということまで遺伝子でわかってしまうことを知らなかったからだ。

自分のルーツや体質など細かいところまでわかってしまう遺伝子についてもっと知りたくなった。